

作品番号034-1



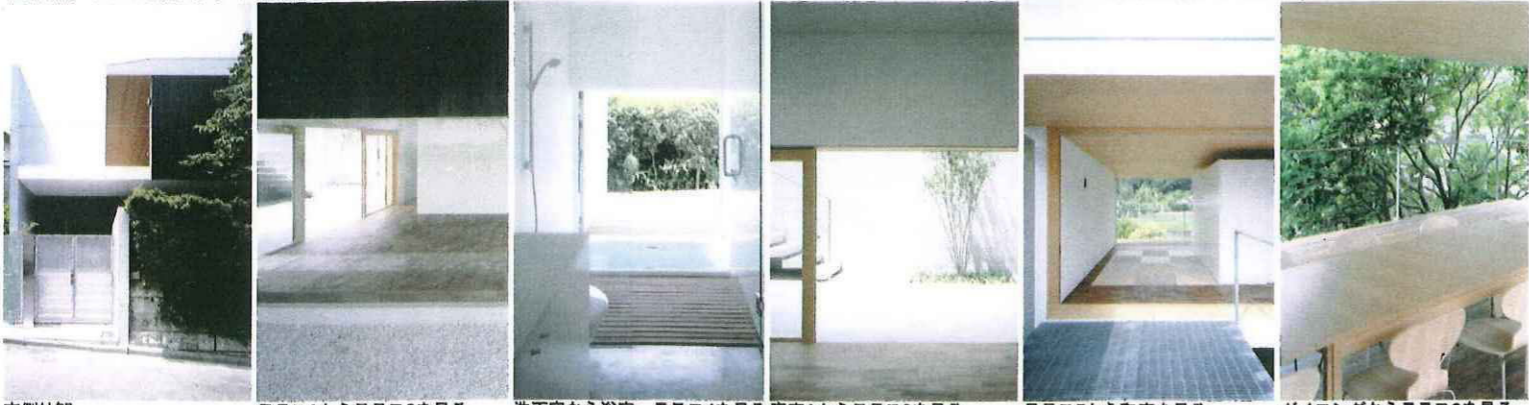
マグノリアや緑山を望めるリビング・ダイニング 天井高さは2,400mmで1,460mm幅の開口を得ている。夏季は心地の良い風が抜け、冬季はバイオマスエネルギーで暖を取る。地球温暖化・石油資源の高騰に伴い、電気やガスによる省エネルギー化が急務になっており、これらのエネルギーを極力使わないで積極的に自然エネルギーを利用・活用できる生活の営みが、ここでは行われている。



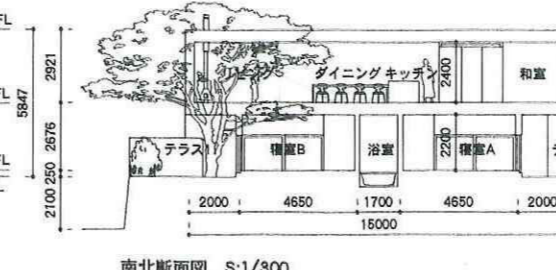
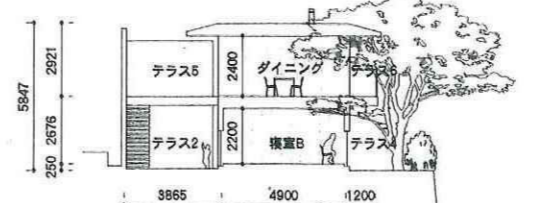
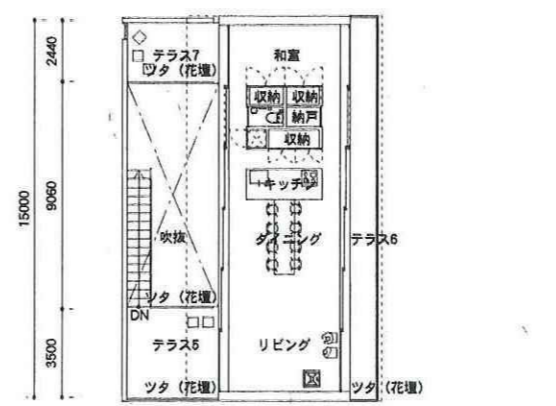
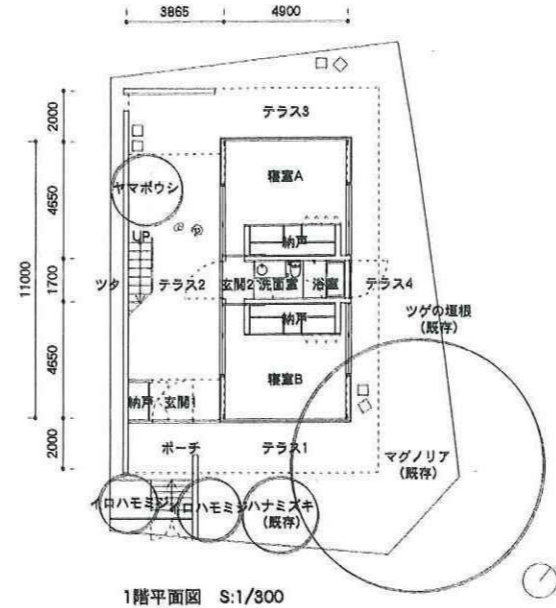
東側外観 ツグの垣根によって1階が隠されている



寝室Bから東側を見る ツグの垣根を超えて外部を見通すことができる



南側外観 テラス1からテラス2を見る 洗面室から浴室、テラス4を見る 寝室Aからテラス2を見る テラス7から和室を見る ダイニングからテラス6を見る



「生きる喜び」

敷地は都心から車で1時間程南西の方角へ向かった横浜市と町田市との県境に位置する。植物を育てる事が好きな建主は、静かな暮らしの中で自然環境と共に生活が出来るような家望んでいた。以前からこの土地で大切に育てられてきた樹齢30年を超えるマグノリアや、敷地の輪郭に沿って植えられたツグの垣根など既存の樹木を出来るだけ残し、自然と共存する想いを前提に進められた建て替えである。

建物は敷地の中心部に機能部分を寄せ、様々な光と影を落とし込む2枚の壁と1枚の大屋根、周囲に散りばめられた7種類のテラスによって形づくられている。プライベート性のある下層階は水回りを挟んで2つの寝室を配置し、収納周りのRC部分と寝室の間に置かれた75mmの角柱によって上層階を支え、周囲のテラスに対して開放的な開口を持たせている。パブリック性のある上層階はワンルームの中にリビング・ダイニング・キッチン、和室と収納コアを配置し、相互に組み込まれたテラスと共に流動的な空間を作っている。この上下階の2つの領域を縫い合わせるようにテラスが挟み込まれ、緩やかな階段で繋がりが合う。建物の中に組み込まれたこれらのテラスは内部空間と同等に日々の暮らしの中で生きた場所となっている。

ベイヒバ貼りの天井による一枚の屋根は、傘を広げた様に付き、内部空間を柔らかく包み込む。天井高を抑え、低く張り出した軒先の方へは、四季折々の移ろいゆく植物や山々が広がっている。屋根の構造は250mmのH鋼が3本の大梁として入っており、軒先の方へと小梁が続く。

この建物は光や影、風や雨といった自然要素の断片が住まいの各場所に映し込まれ、四季の移ろいと共に時が流れていく。自然環境と建築との間で住まい手が響き合い、屋内外を問わず様々な場所で遊びが見出される。こうして、日々の営みの中で感じ得る生きる喜びこそが、建築に於ける根元的な力と成り得るのではないかと考えている。

【建物周辺の微気候形成に対する配慮】

- 周辺環境の把握：所在地の周辺は2階建てアパートやハウスメーカーなどによって建てられた家々が混在して立ち並んでいる。本計画の建物は周りの家々や木々より低くする為に建物の最高高さを5.8mとした。また、以前からその敷地に植えられていた大樹木のマグノリアや生け垣のツツジ、そして新しく植えられた3本の樹木やツタ類等によって、植物と建物との融合を図っている。
- 隣接建物との関係の把握：隣接建物間でプライバシーが守れると同時に、お互いに静かな生活が送れるような配置を行っている。
- 建物内と周縁部の微気候形成に配慮した設計の工夫：隣接建物や道路から程良い距離を設ける為に建物の機能を中央部分に寄せ、それによって生まれた周縁部のヴォイドスペースが微気候の形成となっている。夏季は温度差のあるテラス間を利用した通風が可能となり、冬季は各テラスに日溜まりのある空間を作る。

【省エネルギー、建物の温熱環境・光環境などに関する環境上の配慮】

- 高断熱化：屋根や外壁はウレタンフォームと鉄骨の耐火被覆を兼ねたロックウールを施し、2重断熱とした高断熱化を図っている。
- 省エネルギー型高効率設備機器の使用：省エネガス給湯器として「エコジョーズ」を採用し、高効率運転により低CO2排出量を実現している。
- 自然エネルギーを活用する機械設備の使用：本計画の為に製作した薪ストーブと24時間換気による空気の流れを利用し部屋全体を暖めている。
- 冬の暖かさの確保/蓄熱：お昼から夕方にかけて低い角度で入射してくる西日を積極的に取り入れる事によって床（1.2階共下地はコンクリート）を蓄熱し、夜の冷え込みを抑えている。夏季は張り出した軒庇により西日を抑える。
- 夏の涼しさの確保/パッシブデザイン：緑化や風通しが良くなる様なプランニングを試みており、一年を通してエアコンは殆ど使われていない。

【長寿命化、省資源化、使用材料などに関する環境上の配慮】

- 長寿命化：長寿命化を図る為、主体構造を鉄骨造としている。
- 使用材料の安全性：外壁や天井材、木製サッシに使用している水濡に強いヒノキ科のベイヒバをはじめ床材のウォールナットやテラス材のイペなど可能な限り再利用可能な天然素材を使用している。シックハウスなどによる安全性の考慮と同時に、くつろぎと安らぎのある空間が生まれ、心理的な安心感が得られている。また、調理器具は電磁波が少なく、火災等による安全性にも富んだラジエントヒーターを使用している。
- 維持管理・メンテナンス性：この住まいの象徴でもある大きく付き出された一枚の大屋根によって雨がかりの部分が少なくなり、耐候性の向上が期待できる。
- 暮らし方の変化への対応：小部屋を幾つも造らずにある程度の広さを持ったがらんだ空間を設け、将来の変化に対して、柔軟に対応出来るようにしている。また、建物の機能部分を敷地の中央に寄せている為、将来に於いて周囲に設けたヴォイドスペースを室内空間として拡張する事も可能である。

【福祉、防災に対する配慮】

- 福祉：浴室は基礎を掘り下げ、浴槽と浴室の床レベルをなるべく近い状態にしたバリアフリーな浴室になっている。浴室側の扉を開けるとテラス4の先にあるツグの垣根や道路と敷地との高低差によって外から見られる事は無く、露天風呂に近い状態の心地の良い空間を作っている。
- 防災：周縁部の微気候形成が避難スペースや延焼スペースとなり、隣地間で起こり得る火災をRC壁によって食い止める事が出来る防災計画となっている。

以上の様に、自然エネルギー・自然要素を生活の営みの中に積極的に取り入れ、自然環境と住環境が密接に重なり合っている。持続的に環境負荷の低減が実現され、その空間の中で人間同士とのコミュニケーションが様々な形で生き生きと生み出されている。こうして日々の営みの中で、人工的なエネルギーに頼らないヒューマニティ溢れる生活環境が創り出されている。

建築概要	構造規模：鉄骨造一部RC造 2階建て
所在地	建築面積：78.6㎡
用途地域：第一種低層住居専用地域	延床面積：127.4㎡
主要用途：専用住宅	敷地面積：244.06㎡
家族構成：母親+夫婦	最高高さ：5.84m